

令和7年度 山陽小野田市中学生海外派遣事業 帰国報告書



令和7年7月30日(水)～8月10日(日)

山陽小野田市

目次

中学生海外派遣事業概要	2
-------------	---

- 1 目的
- 2 派遣先
- 3 派遣期間
- 4 派遣生徒及び引率者
- 5 スケジュール

活動日誌	4
------	---

ホームステイ報告及びホストファミリーの紹介	8
-----------------------	---

- ・派遣生徒
- ・引率者

◆中学生海外派遣事業概要

1 目的

山陽小野田市と友好都市モートンベイ市との交流を図り、もって両市の友好親善と相互理解を深めるとともに、広い視野と国際感覚を持った次代を担う人材を育成することを目的とする。

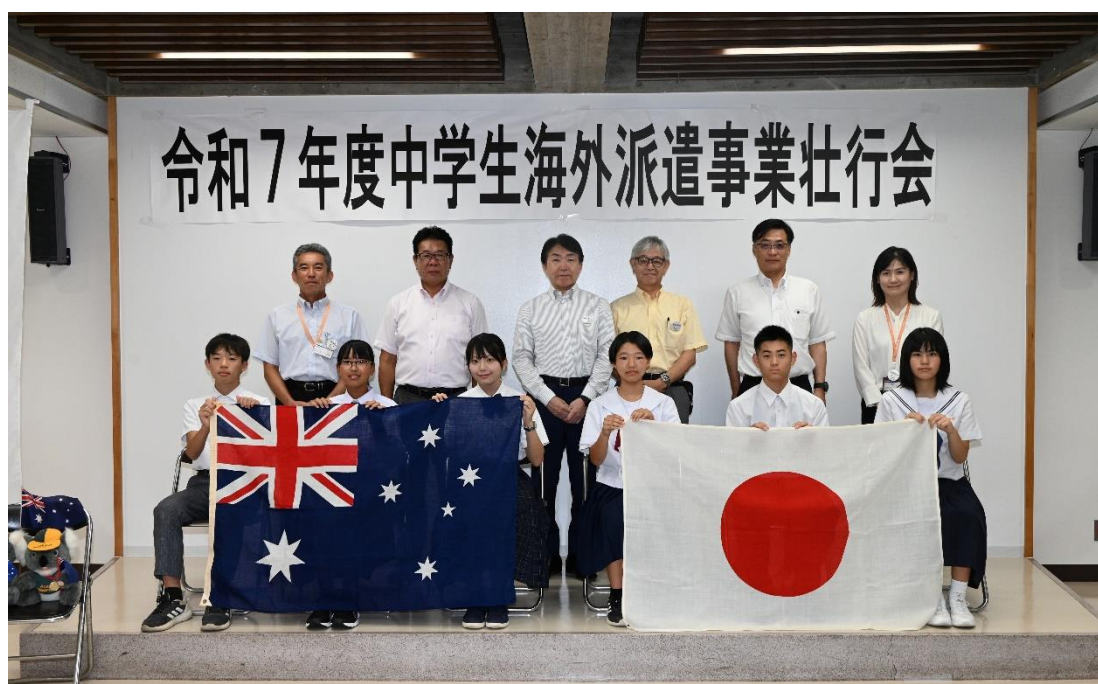
2 派遣先 オーストラリア クイーンズランド州 モートンベイ市



3 派遣期間 令和7年7月30日(水)～8月10日(日) 12日間

4 派遣生徒及び引率者(敬称略)

うえだ あつし 上田 昊	竜王中学校 2年	かじい りこ 梶井 璃子	小野田中学校 2年
いけだ たまき 池田 環希	高千帆中学校 3年	きぬがわ うりん 衣川 初凜	厚狭中学校 2年
みと なおき 三戸 尚己	厚陽中学校 2年	ほしの ひかり 星野 光璃	埴生中学校 3年
しのはら まさひろ 篠原 正裕	協創部長	あんどう ともえ 安藤 知恵	市民活動推進課主幹



5 スケジュール

【出発前】

第1回オリエンテーション	5月14日(水)18:30～20:00	市役所3階大会議室
第2回オリエンテーション	6月29日(日)9:00～18:00	本山地域交流センター
壮行会	7月25日(金)16:00～16:30	市役所3階大会議室
第3回オリエンテーション	7月25日(金)16:30～18:00	市役所3階大会議室

【オーストラリア派遣期間】

7月30日(水)	JR 厚狭駅～福岡空港(出発)～台北桃園国際空港(乗継)～
7月31日(水)	ブリスベン空港(到着)～モートンベイ市へ レッドクリフステートハイスクールにて歓迎式、終了後校内で過ごす
8月1日(金)	レッドクリフステートハイスクールで授業を受ける
8月2日(土)	ホストファミリーと過ごす
8月3日(日)	ホストファミリーと過ごす
8月4日(月)	ローンパインコアラサンチュアリーへ遠足
8月5日(火)	レッドクリフステートハイスクールで授業を受ける
8月6日(水)	クイーンズランド州公立学校がストライキの為休校となり、ホストファミリーと過ごす
8月7日(木)	スカーボロ小学校(※1)訪問、ハンピーボング小学校(※2)訪問
8月8日(金)	レッドクリフステートハイスクールで授業を受ける
8月9日(土)	ホストファミリー全員とさよならパーティー ブリスベン空港(出発)～台北桃園国際空港(乗継)～
8月10日(日)	福岡空港(到着) 大雨の為新幹線が運休となり、博多で宿泊
8月11日(月・祝)	JR 博多駅～JR 厚狭駅着

※1 スカーボロ小学校は高千帆小学校の姉妹校

※2 ハンピーボング小学校は赤崎小学校の姉妹校

【帰国後】

帰国報告会	10月3日(金)17:00～	市役所3階大会議室
-------	----------------	-----------

活 動 日 誌



日付	報告者	活 動 内 容
7/30 (水)	梶井 璃子	厚狭駅をたくさんの方々に見送られて出発しました。パスポートを見せたり、検査をしたり、飛行機に乗るまでの準備は大変でした。オーストラリアに行くことができる、という実感が飛行機に乗るまではあまりなかったけれど、台湾に着いたとき、オーストラリアで頑張ろう、という情熱が溢れました。準備したり学んできたことを 10 日間発揮したいと思います。
7/31 (木)	衣川 初凜	ハイスクールでバディと出会い、その後部活動のようなものを見学し、昼からはホストファミリーの家で過ごしました。ハイスクールの生徒やホストファミリーとも英語が全く話せず、聞き取ることもできなくてとても悔しかったです。でも、夜におみやげを渡してからは自分からお菓子の説明ができたりして、少しファミリーと打ち解けられたかなと思いました。明日からの目標は翻訳機をあまり使わずに会話をすることと何に対してもリアクションをすることです。
8/1 (金)	星野 光璃	今日は High School でいろんな学年の生徒と会いました。初めて会って話したのに、もともと友達だったみたいにフレンドリーに接してくれて、関わりやすかったです。廊下や階段ですれ違うときにも「こんにちは」や「おはようございます」など挨拶をしてくれたり、1 日に何回会ってもめっちゃ笑顔で手を振ってくれる子もいました。日本人だと初対面でそういうことをしてくれる人は少ないと思うので、オーストラリア人と日本人の違いだと思いました。放課後にバディのお姉ちゃんがアルバイトに出かけていて、夕方の 16 時 30 分からアルバイトを始めるのに、終わるのが午前 0 時だと聞いて驚きました。約 6 時間働いていて高校生なのにすごいなと感銘を受けました。
8/2 (土)	上田 昊	今日は朝からお昼まではホストファミリーと遊び、夕方からは寿司屋へ行きました。日本の寿司屋とは違ってあまり生物は出さないようにしているということがわかりました。

日付	報告者	活 動 内 容
8/3 (日)	池田 環希	<p>ファザーとバディとマーケットに行きました。ネックレスやぬいぐるみを買えてとてもうれしかったです。店員さんや会う人みんなフレンドリーでいい人で、とても楽しかったです。海の近いところだったので、海を見ながらトルネードポテトやすごく大きいイチゴを食べました。オーストラリアの食べ物は全部大好きです！</p> <p>夕方には、親戚みんなで集まって、バーベキューをしました。日本と違い、それぞれオリジナルハンバーガーを作ってリビングでテレビを見ながら食べました。日本でいう大喜利のような番組が流れていました。何を言っているかは分からなかったけど、面白かったです。親戚が帰った後、マザーと「折り紙」や「あやとり」をしました。私はずっと「あやとり」は日本の文化だと思っていたので、マザーが自分より上手に「あやとり」をしてびっくりしました。「あやとり」は世界共通みたいです。</p>
8/4 (月)	三戸 尚己	<p>動物園に着いてから少し雑談しました。日本語が上手な人がいてよかったです。カンガルーの餌やりをしました。くつろいでいるところが可愛かったです。コアラとトカゲの話や、この動物園の歴史を少し聞きました。コアラとトカゲに触れると、コアラはお酢の匂いがして、トカゲはこうらがザラザラしていました。</p> <p>家に帰ってから、末っ子とピッチングマシンを使って野球の練習をしたり、子どもたちにハカを教えてもらいました。子どもたちには日本の風の作り方を教えました。明日風を上げる予定です。</p>
8/5 (火)	衣川 初凜	<p>一限目が体育でバスケをしました。みんなボールをくれたりパスをくれたりしてとても優しくかったです。二限目はディスカッションで多様性についての授業がありました。一回目のランチタイムではバディの Amelie が誘ってくれて Amelie の友達と一緒にランチをしました。その後はアボリジニのダンスを見ました。バディの Oliver が踊っていてとてもカッコ良かったです。二回目のランチでは授業で仲良くなったミアとアリと一緒に話しました。たくさん質問をしてくれて嬉しかったし、楽しかったです。</p> <p>家では味噌汁を作りました。人参が硬かったし、美味しいわけでもなかったのにみんなは「Good」と言ってくれて申し訳なかったです。夕食後は Vanessa といっしょに自分の家族用のシュシュを作りました。最初と比べると聞き取れるし、話せるようになりました。みんなでジョークを言って笑えるようにもなりました。それがとても嬉しいです。</p>

日付	報告者	活 動 内 容
8/6 (水)	上田 昊	今日は学校が休みだったので、朝からみんなでビーチでバレーボールをしました。ホストファミリー対僕とバディでしたがバディが強すぎて 21 対 0 で勝ちました。ちなみに僕は一点も入れていません。
8/7 (木)	星野 光璃	今日はスカーボロ小学校と、ハンピーボング小学校に行きました。どちらの小学校でも、児童たちがとてもフレンドリーに接してくれて、最初は緊張していたけど、段々と緊張もほぐれて、仲良くなることができました。スカーボロ小学校では、小学 5 年生と一緒に、折り紙をして鶴を作りました。その後は幼稚園児に日本の本を読み聞かせしました。私は「はらぺこアオムシ」と「くまさんくまさんなにみてるの？(Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?)」の 2 冊を読みました。読み終わった後に残り時間が少なかったから、少し会話をして終わろうと思ったら、「Different book!!」と言われて、日本の本に興味を持ってくれて、とても嬉しかったです。
8/8 (金)	梶井 璃子	最後のレッドクリフステートハイスクールの授業でした。今日の日本語教室では、2 つ選択があって、別れて、「どっちがいい？」と日本語で聞くゲームをしました。その後、料理教室で、先生がパスタの麺を手作りしているのを見ました。実際に食べさせてもらいました。もっちりして美味しかったです。そして明日のさよならパーティーの動画作りや最終確認をしました。明日でホストファミリーやオーストラリアとお別れとなると考えると本当に寂しいです。 夕食にいなり寿司と、味噌汁を作りました。やっぱり日本の味だから、嫌いな人と好きな人に別れました。だけど、気に入ってくれた人から、「This is lovely taste!」と言ってもらえたので、作ってよかったなと思いました。
8/9 (土)	池田 環希	午前中はマザーとスーパーに行ってお菓子のお土産を買いました。そのあとのパッキングがとても大変でした。100 キロ持ち上げられるお兄ちゃんのプロディーにスーツケースを押し込んで閉じてもらいました。ハイスクールでフェアウェルパーティがありました。ソーラン節の音楽が何度も止まってびっくりしたけど、なんとか踊りきれて良かったです。サプライズで なおきとバディがハカを踊ってくれたり、みんなでコアラダンスをしたりして、とても楽しかったです。みんなで紙風船リレーもしました。ファザーが扇子を壊してしまったりして大変だったけど、なんとか 2 位になりました。最後にみんなで good time を歌いました。スマホのライトをつけてペンライト代わりにして、とても綺麗でした。色々ハプニングや説明不

日付	報告者	活 動 内 容
		足もあったけど、みんなで協力して対応することができました!!最後のお別れで、みんなが泣いてくれて、とても寂しかったです。バスが走り出してもみんなが走って追いかけてくれたけど、一人一人姿が見えなくなっていったのがとても悲しかったです。絶対またオーストラリアに行こうと思いました！
8/10 (日)	三戸 尚己	<p>福岡空港に着きました。あと少しなどで、頑張りたいです。空港で審査がありました。通過できて良かったです。</p> <p>電車で博多駅まで行きました。もうすぐで自分たちが乗る電車だったので新幹線ホームに行きました。すごく熱くて湿気がすごかったです。結局新幹線は運休になりました。近くのホテルに泊まりました。明日もあるので早く寝ようと思います。</p>
8/11 (月)	梶井 璃子	<p>無事に新幹線が動き、家に帰ることができました。オーストラリアで過ごした写真を見ると、ついこの前までいたのに、懐かしく感じました。この13 日間、たくさんの初めての経験ができて、本当に全部が一生忘れない思い出となりました。この行事に携わってくれた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。</p>



派遣生徒とホストファミリーの皆さん



竜王中学校2年

う え だ
上 田

あ つ し
昊

1計画(PPLAN)

- オーストラリアの人とコミュニケーションを取れるようになる
- 積極的に話に行ったり、自己主張をする。

2行動(DO)

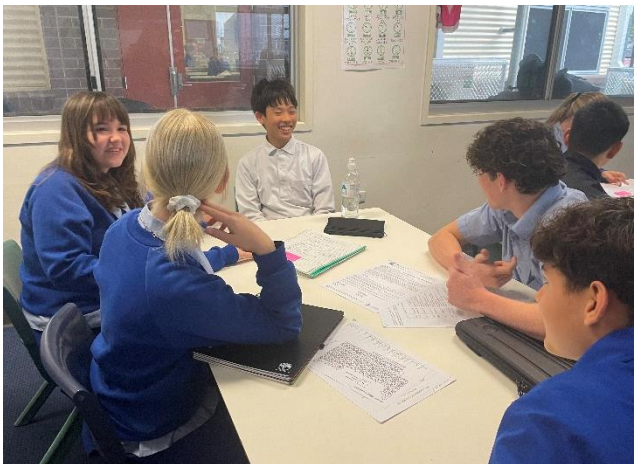
相手から話題が振られるのを待つのではなく自分から積極的に話に行きました。不安だったけれど、相手は必ず反応してくれるので嬉しかったです。本当にわからない英語等はバディが教えてくれました。もっと勉強して他人に頼らずに英語で喋れるようになりたいです。



3評価(SEE)

★80点★

僕はうまく喋れるかどうか不安だったけれど、自分から話しかけさえすればたとえ間違っただとしても必ず反応してくれました。このことから僕は積極的になることの大切さを勉強したいと思いました。この経験から学んだことを活かして将来海外に関係する仕事をしたいです。



派遣生徒レポート～オーストラリアの10日間～



学校生活について

レッドクリフハイスクールでは先生が親のような存在に感じました。生徒と一緒にゲームをしたり、生徒の隣に座って授業をしたりなど生徒に対して、友達のように関わっているような感じでした。

僕が問題を正解したりしたときには先生がお菓子をくれたり、褒めてくれたりしてくれました。生徒はみんな仲が良かったです。

全員が笑っていて失敗してしまったとしても冷やかしたりせずに、大丈夫だよ。もう一度やってみようなど励ましたりしている光景をよく見ました。みんなが協力して課題を乗り越えようとしている行為を当たり前に行っているのが素晴らしいと感じました。

でも一番気になったのが、何故かみんなが僕に話しかけてくれる事です。普通違う国から来た人などにあったら緊張するはずなのに全く緊張せず、それどころか、もともと僕がここにいたかのような対応をしてくれました。そのおかげで友達もたくさんできたし、みんなで一緒にいることが楽しく感じました。話しかけてくれて本当にありがたいし、嬉しかったです。



ホームステイについて

ホームステイでは、ホストファミリーが優しくとても嬉しかったです。ホストファミリーの家に行ったらすぐにバディがバレーボールをしようとしたので嬉しかったです。向こうも緊張しているのに、こちらの緊張をほぐそうしてくれたことがとても嬉しかったです。それに困ったことなどがあっても丁寧に

教えてくれて、ミスをしたときには大丈夫だよと行ってくれたことがとても嬉しかったです。おかげで緊張していたけれど、きちんとオーストラリアの人に話しかけることができました。あと妹達姉妹がとてもやんちゃで可愛かったです。

バディとは学校から帰ったら必ず近くのビーチでバレーボールをしました。上手く打つコツなどを教えてくれました。お母さんとお姉さんはとても面倒見がいい思いやりのある方たちでした。



印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

貴重な体験や新しいことを学びたいなら必ず申し込んだほうがいいです

もし一瞬でもオーストラリアへ行ってみたいと思ったなら、申し込んでみてください。

僕は英語で話すことに対して自信も技術ありませんでしたが、一生懸命話してみたら、笑顔で反応してくれたり、驚いたりしてくれました。不安でも全力で挑戦してみたら、必ず成果は出るので是非挑戦してみてください。そしたら自分の中で一番の宝物を手に入れることができます。

お世話になったホストファミリー



母: Ina Mills

バディ: Te Awanui

兄弟: Armahli

Tein

Asena-Lei



小野田中学校2年

かじい りこ
梶井 璃子

1計画(PPLAN)

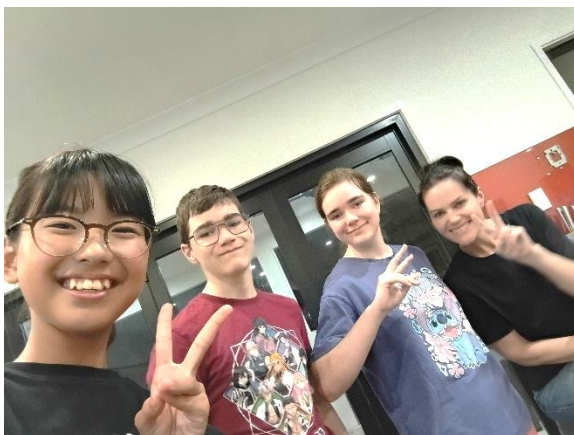
- 笑顔を忘れずに積極的に挑戦する。
→恥ずかしがらずにオーストラリアの沢山の方々と会話する。
自分から進んで学ぶ心を忘れない。
- オーストラリアの生活習慣や文化の特徴を学び、日本の文化も伝える。
→日本と違うところを見つけてオーストラリアの人に質問し、なぜそのような習慣や文化があるのか考えたり聞いたりする。日本のものや写真を通して日本のことを伝える。
- ファミリーの一員になる。
→家のルールを聞いたり、一緒に話したりしてファミリーの中に溶け込み、楽しく過ごす。



2行動(DO)

最初は緊張してうまく喋ることができなかったけれど、だんだんと英語に慣れてきて、いろいろな方々と笑顔でコミュニケーションをとることができました。少し早くて聞き取れなかったときは、「Could you speak slowly ,please?」と伝えたら、ゆっくり話してくださったので安心しました。だけど、ゆっくり話してもらっても分からなかったときが少し悔しかったです。ファミリーに「この英語は日本語で何て言うの?」と聞かれて私がその答えを言ったら、少しずつその日本語を使ってくれました。日本語に興味を持っただけでとても嬉しかったです。日本の写真を見せたら、buddy が「WOW!」と言って、日本に行ってみたいと言ってくれたので、写真を撮って行って良かったなと思いました。

家のルールについて聞くと、「ないよ! 自由に過ごしてね!」みたいなことを言ってくださいました。水のことは何にも言われませんでした。しっかり節水を心がけました。オーストラリアの文化でびっくりした事もあったけれど、そこも学んでいって異文化を知ることができて楽しかったです。ホストファミリーやハイスクールの生徒と話したりすると、楽しくて、次第に笑顔が増えて、10 日間、とても有意義な時間を過ごすことができました。



3評価(SEE)

★90点★

ホストファミリーと話すときに、翻訳アプリを使って見せてくれることが多かったのと、私も少し翻訳アプリを使ってしまい、スムーズに会話をするのができなかったからー10点です。だけど、ジェスチャーを使ったりして、なんとか乗り越えることができました。

日本語の授業で、自己紹介を日本語でした後、少しだけ無言の時間があつたので、もうちょっと話題をふれるとよかったなと思いました。だけど、「Do you know Japanese anime?」などと聞いてみると、話が盛り上がったので積極的に話しかけて良かったです。日本語教室の皆は、意外に、ドラえもんを知りませんでした。ドラえもんではなく、僕のヒーローアカデミアや、セーラームーンなどを知っていて、びっくりしました。

今回の経験を通して、ホストファミリーのもとへ戻るという新しい目標ができました。そして、もっと海外の色々な所についても知りたくなりました。だから、もっと英語を勉強して会話がスムーズにできるようになりたいです。

派遣生徒レポート～かけがえのない思い出～



学校生活について

私が通った、レッドクリフ・ステート・ハイスクールでは、日本の学校と違うところがたくさんありました。まず、化粧やピアス、髪を染める、お菓子やスマホも持ち込みが可能でした。何なら授業中にリンゴやガムを食べている人がいました。それほどオーストラリアの学校は自由でした。私がびっくりしたのは、ランチタイムが二回あったことです。だから持ってきたランチを二回に分けて食べることができます。今思うと、日本の栄養バランスが考えられた給食がすごいなと思いました。

そして、日本の学校は先生が移動して授業をすることが多いです。ですが、オーストラリアの学校は生徒がそれぞれの教室に移動して、授業を受けます。そのため、教室の数は、とても多いです。学校はとても大きくて、全く場所を覚えることができませんでした。皆が移動をするので、休憩時間、校内は生徒でいっぱいでした。いろいろな生徒とすれ違くと、「こんにちは！」や「Hello!」などと挨拶をしてくれました。グータッチをしてくれた人もいました。オーストラリアの方はとてもフレンドリーでした！

私が一番印象に残った授業は日本語クラスの授業です。色々な学年の日本語の授業を受けてみて、皆日本語がとても上手だと思いました。日本語教室の授業では、最初は日本語で自己紹介をしました。皆スラスラ日本語で言えて、びっくりしました。「Do you like Japan?」や「Do you want to go to Japan?」などと聞いてみると、「Yes!」との答えが多かったです。日本のことに興味を持っていてとても嬉しかったです。学校ではスマホは持っていくことができるけれど、使えないので、自分の言葉で、ジェスチャーで頑張って伝えることができました。何事にも笑顔で接していたら、自然に話が盛り上がったのでとても良かったなと思います。

オーストラリアの先住民、アボリジニの伝統的な踊りを披露してくれたり、アボリジニが使っていた武器のブーメランに絵を書いたりしました。アボリジニのことを深く知ることができました。



ローンパイン・コアラ・サンクチュアリへ班で行きました。そこで初めてコアラを生で見ました。実際に触ると、ふさふさだったけれど、少しユーカリの匂いで臭かったです。だけど初めての班の皆と回ったので、最初は緊張してあまり話すことができなかったけれど、私から質問してみると、楽しそうに答えてくれたので、勇気を出して言ってみてよかったなと思いました。

そして、学校に行くときは、車で送ってくれて、帰りはバスのカードを使ってバスに乗ったり、車で帰ったりしました。私は歩いていつも学校に行っているの、とても新鮮でした。

ホームステイについて

私のホストファミリーは、バディの Lochlan(ロ克蘭)と Lola(ローラ)、ファザーの Richard(リチャード)、マザーの Tracy(トレイシー)、猫の Church(チャッチ)でした。ファミリーと過ごす日々は本当に最高でした。皆とてもフレンドリーで優しかったです。「お腹空いていない?」「体調はどう?」「今日はどうだった?」などと私に気を使ってくださいました。本当にありがたかったです。家は二階建てでプールとテラス付きでした。日本ではあり得ないほどの部屋数と家の大きさでした。だから、とても特別感があって自然と気分が上がりました。

初めはとても緊張して、あまり上手く話すことができなかったけれど、ファミリー皆がたくさん話しかけてくれて、緊張が溶けてきて、たくさん話したり、遊ぶようになりました。猫のチャッチが私のところに来て、寄り添ってくれたときは、本当にとても安心しました。特に最後の方になるにつれて来てくれる回数が増えたので、とても嬉しかったし、愛おしかったです。



二日目の放課後にゴールドコーストの暗闇の中を進んだり光の迷路に行きました。その時、ロ克蘭とローラが手を引いてくれたのがとても嬉しかったです。近くに海があったので、見に行きました。もう暗くなっていたので、暗い中、白波がたっている風景は、絶景でした。

ゴールドコーストの夜、家に帰る直前に、探し物をしている人がいて、マザーが声をかけて一緒に皆で探しました。ローラが落ちていたゴミを拾ってゴミ箱に捨てていました。ファミリー皆本当に優しく、尊敬します。本当にファミリーはとても親切で周りに気を配れる人たちでした。私も見習いたいです。

8日目に、ショッピングに行きたい、とファザーに言ってみると、「OK!」と言ってきて、連れて行ってくださいました。本当に感謝でした。そして、お土産代を全部払ってくださいました。私のファミリーは、ショッピングに行ったときや、外出したときは、だいたいフローズンドリンクや、スナックを食べました。その大きさもかなり大きくて、量が多かったです。何もかもビックサイズでした。

ドライブに出かけた時、気づいたことがあります。それは、交差点についてです。日本の交差点は十字路になっています。ですがオーストラリアの交差点は丸くなっていました。その周りを回って曲がったり真っすぐ進んだりします。衝突事故を減らすためなのかなと思いました。

どこかへ遊びに行くときは、ロ克蘭とファザーはだいたい半袖半ズボンでした。私はとても寒いと感じて、長袖長ズボンとジャンパーを着ていきました。日本人と体感温度が違うんだなとびっくりしました。ロ克蘭が半袖半ズボンで出かけて、「Oh, very cold」と、寒がっていた日もありました。私は、笑っちゃいました。

遠い所には車で連れて行ってくれたファザーとマザーに感謝しかありません。色々な所に連れて行かせてもらって、オーストラリアのことを学ぶことができました。そして、私のために色々してくださったファミリーに恩返しをしたいです。

最後のお別れのときに、「またここに戻って来る？」と聞いてくれました。本当に嬉しかったです。今度はホストファミリーのもとに戻ってくるという大きな夢ができたので、それに向けてもっと英語を勉強してスムーズに、困らせないように会話ができるようにしたいです。10 日間はあっという間だったけど私にとってかけがえのない思い出となりました。

印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ



今回オーストラリアに行かせていただいて、これはやったほうがいい！ということがあります。1つ目は、お土産をたくさん用意することです。私のファミリーも、派遣に行った皆のホストファミリーも、日本からのお土産をととても喜んでくれました。また、日本のことを知ってもらえるきっかけとなりました。そして、お土産もたくさんもらいました。2つ目は、会話になるきっかけのものを準備することです。私は日本の写真を撮って行って、バディに見せたら、とても興味津々で、色々質問してくれました。また、あやとり等を持っていたら、マザーはあやとりがとても上手だったのでびっくりしました。日本の話もできたので用意して良かったかなと思います。

オーストラリアは、日本の感じがいない、というわけではありませんでした。セブンイレブンもあるし、お寿司屋さんもあってマクドナルドやケンタッキーもありました。少し日本味があって安心しました。

初めは私も緊張して、上手く話すことができない時がありましたが、慣れてくると、とっても楽しいです！なので、来年の派遣生徒さんには、「Never give up」を忘れずに、どんどん話しかけてみてほしいです！何を言っているかわからないときは、ファミリーが翻訳機を使ってくださいし、ゆっくり話してもらえますので、安心してください！ジェスチャーをしたり、表情を明るくしたりすると、自然に場が盛り上がるので大丈夫です！

オーストラリアに行ってみたい！という方はぜひ勇気を出して応募してみてください！一生の思い出になります！笑顔忘れずに、精一杯頑張ってください！

貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

お世話になったホストファミリー



父: Richard

母: Tracy

バディ: Lochlan

Lola

猫: Church



高千帆中学校3年

い け だ た ま き
池 田 環 希

1計画(PPLAN)

- いつも笑顔でいる
→疲れやストレスを溜め込みすぎないようにする
よく寝る
- 翻訳機に頼りすぎないようにする
→よく使うフレーズなどを覚えていく
- オーストラリアの人とたくさん関わる
→自分から積極的に話しかける



2行動(DO)

ストレスは全くなくとても楽しい毎日だったので、いつも自然と笑顔で過ごせました。楽しい毎日してくれたホストファミリー、スクールの友達には本当に感謝です。自分が笑うと相手も笑ってくれるし、楽しい気分になるので笑顔は大切だなと思いました。

チェスの用語やどうしても聞き取れないときは翻訳機を使ってしまいました。でも、簡単な単語で言い換えてもらったり、自分の知っている単語を組み合わせで表現したり、ジェスチャーを使ったりしてなるべく翻訳を使わずに生活できました。話す中で、新しい表現や文法、ジョークをたくさん学びました。知識として学ぶより、実際に使った方が断然覚えやすいと分かりました。オーストラリアのみんなが伝えよう、理解しようとして一生懸命になってくれてとても嬉しかったです。

とても多くの人と関わる事ができて、友達もたくさんできました。分からないものや興味があるものはなんでも聞いて、とにかくたくさん話しました。リアクションを大きくすると、会話が盛り上がって楽しかったです。ホストファミリーの家では、自分の部屋にいるのは寝るときだけにして、なるべくリビングで過ごすようにしました。会話も増えて、ホストファミリーの日常がわかって、良い判断だったなと思います。



3評価(SEE)

★100点満点★です！

もっとこうすればよかったという後悔はなく、とても充実した毎日でした。たくさんの人の優しさ、温かさに触れて、オーストラリアとオーストラリアの人々が大好きになりました。やりたかったことも全部できたので良かったです。今後、この経験をいろいろな人とのコミュニケーションに活かしたいです。私はオーストラリアに行った後、大阪万博にも行きました。さまざまな国の人がいて、全員が日本語ができる

わけではないので、英語で話すタイミングも多かったです。以前の私なら、自分の英語に自信がなく、会話を全て家族に任せていたと思います。しかし、オーストラリアに行ったことで自信がつき、自分から進んで話すことができました。まずは自分からフレンドリーに話しかけることで、みんなフレンドリーに話してくれるとわかりました。オーストラリアでの経験は外国人だけでなく、日本人との会話でも生かせると思います。笑顔とリアクションが大事なのはどの国でも同じです。これまで以上に積極的に人と関わってコミュニケーションを楽しもうと思いました。

派遣生徒レポート～人生最高の思い出！～



学校生活について

オーストラリアでは毎日レッドクリフステートハイスクールに通いました。ハイスクールに通うといっても勉強をするのではなく、日本語クラスに参加してコミュニケーションをとったり、遊んだりする授業だったのでとても楽しかったです。クラスメートは毎回違い、さまざまな学年の子と授業を受けました。その中でも、year10の日本語クラスの子とは関わる機会が多かったです。

ハイスクールでの生活で驚いたのは、授業の自由度です。授業ごとに教室を移動するのですが、座る席も生徒の自由だし、友達と議論しながら話を聞いている人もいました。日本では発表したい人が手を挙げるのが一般的ですが、私が受けた授業では、ボールを投げてそれをキャッチした人が発表していました。発表後もみんなが拍手したりリアクションをくれて、自分の意見を言いやすい雰囲気だったのがとてもよかったです。参加型の授業だったので、ただ座って先生の話聞くだけより身につけやすいなと思いました。



ハイスクールではスマホを使ってはいけなかったので、自分の力でコミュニケーションを取らなければいけませんでした。最初は、話しかけても話が通じなかったらどうしようと躊躇してしまうことがありましたが、ハイスクールで過ごすうちに、どんどん話しかけられるようになりました。みんな「こんにちは！」と声をかけてくれてフレンドリーだし、伝わらなかったら簡単な言葉に置き換えてくれます。シックスセブンというジョークもありました。お手玉をするような動きで、シックスセブーンといって笑い合いました。スクールでできた友達とはInstagramを交換して、今でも連絡できます。

ハイスクールでの話題は、アニメやK-POPが多かったです。男子には進撃の巨人やブルーロック、女子にはナナというアニメがとても人気でした。K-POPはほとんどの女子が好きで、私はあまり見たことがなかったので、もっと知っていたら盛り上がったのかなと思いました。ハイスクールでは化粧や髪を染めるのもオッケーで、かなり校則が緩いのにきちんと集団としてまとまっていて驚きました。決まり通りにするのではなく自分で判断しなければいけないので、自主性や判断力、社会性が身につくなと思いました。ランチタイムもそれぞれが好きな場所で食べていて、とてもおのびのびとした環境でした。日本と比べて自信があってフレンドリーなのはこのような開放的で自由な環境のおかげだと思います。

また、滞在中、ハイスクールで 14 年ぶりに教員のストライキがあり、学校が休みになった日がありました。その日の予定が楽しみだったので悲しかったけど、ホストファミリーがお出かけに連れて行ってくれました。日本ではまず見ない珍しい出来事だったので、良い経験をしたなと思います。

ホームステイについて

私のホストファミリーはお父さんのグレン、バディーのエラ、お母さんのクレア、お兄ちゃんのプロディー、猫のミアです。すごく優しく面白くて、いつも家に笑い声が響いているような、仲のいい最高のファミリーでした。

家はすごく広い 1 階建てで、広い庭やプール、テラスまでありました。私用にとっても素敵な部屋を用意してくれていました。なるべくたくさん関わりたいと思っていたので、ほとんどの時間はリビングで過ごし、自分の部屋にこもらないように気をつけました。リビングの大きなテレビにはいつもラグビーの試合が流れていて、プロディーとグレンが応援していました。私がお風呂に入っているときも「Yeahhhhhh!!!!!!」という叫び声が聞こえてきて、最初のうちはびっくりしていました。グレンとクレアはとても仲が良く、急に 2 人でフォークダンスを始めたり、目の前でハグやキスをしていてびっくりしました。アイスが大好きなファミリーで、毎日 2 個くらいアイスを食べました。とても美味しかったです。

毎日のブレイクファーストとスクールに持って行くランチはグレンが、ディナーはクレアが作ってくれました。どれも本当に美味しくてこの 10 日間で人生で 1 番美味しかった料理が 2 度も更新されました。日本では苦手だった野菜なども、オーストラリアで食べるととても美味しかったです。

ハイスクールは 1 時か 2 時ごろに終わるので、放課後はグレンがいろいろな場所に連れて行ってくれました。ショッピングセンターには知らない店や見たこともない商品がたくさんあって、見ていだけでワクワクしました。オーストラリアはとにかく景色が綺麗で、だんだん沈んでいく夕日を見ながら綺麗な海沿いを散歩したり、ジップラインに乗ったりして景色を楽しみました。



クレアのオープンカーやプロディーのトラックに乗ってお出かけたのも、とても楽しかったです。クレアがオープンカーのことを「my baby」と呼んで乗りこなしていて、とてもかっこよかったです。

休日は遊園地に行ったり、親戚が集まってバーベキューをしたりしました。遊園地ではたくさんの動物と触れ合って、とても楽しかったです。バーベキューは、マキというお兄さんとアニメの話で盛り上がった、プロディーとマキの白熱したチェスの試合を見たり、みんなで大喜利のようなテレビ番組を

みたりしました。とても温かい人たちでした。ホストファミリーとの最後の夜、DOLPHINS というところでディナーを食べて、みんなでダンスをしました。海外っぽい陽気で明るい場所でとても楽しかったけど、もうすぐお別れだと思って寂しかったです。

お別れの時、エラとクレアが泣いてくれて、家族みんなとハグをしました。絶対に忘れないよ、またいつでもおいでと言ってくれました。日本に帰りたくなかったです。クレアとは LINE を交換して、今でも連絡を取り合っています。本当に最高のホストファミリーと過ごせてとても楽しかったし、本当に幸せな毎日でした。

印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

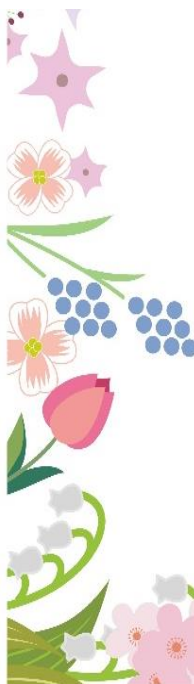


来年の派遣生徒さんは、最初自分の英語が伝わらなかったり、コミュニケーション出来なくても、自信をなくさず何度でもトライして欲しいです。私は行きの飛行機でCAさんに話しかけられたとき、全く意味が分かりませんでした。中国の飛行機だったので、中国語で話されていると思って「English please?」と言ったら「I have already speak English」と言われてしまったほどです。そのときはすごく恥ずかしかったし不安になりましたが、過ごすうちに慣れてきて絶対に楽しめます。オーストラリアの人はすごく親切でフレンドリーだし、日本が好きな人も多いので、殻にこもらず、周りの人を頼るのが大事だと思います。

また、なるべくスマホを使わないようにしたほうがいいです。車での移動中など、暇なときはついスマホを触ってしまいがちですが、外の景色を楽しんだり、車で流れている音楽を聴いたり、ホストファミリーに話しかけたりしたほうがいいです。せっかくオーストラリアにいるのに、日本でもできるスマホで、貴重な時間を無駄にするのはすごく勿体無いです。最終日に、もっとオーストラリアの景色を見ておけばよかったと後悔しないように過ごしてほしいです。

何か忘れたとしてもホストファミリーが貸してくれたりお店に買いに行ったりできるので、あまり気負いすぎず、わくわくした気持ちでオーストラリアに行ってください！

お世話になったホストファミリー



父: Glenn

母: Clare

バディ: Ella

兄: Brodie

猫: mia





厚狭中学校2年

きぬがわ うりん
衣川 初凜

1計画(PPLAN)

○コミュニケーション能力、英語力の向上

→恥ずかしがったり、緊張しすぎず、積極的に話しかける。

○SDGs への取り組みなどを知り、厚狭中学校生徒等に広げる

→出発するまでにオーストラリアの取り組みなどを調べておき、それについて詳しく聞いたり、見たりする。



2行動(DO)

○コミュニケーション能力、英語力の向上

→自分から話しかけることでコミュニケーション能力の向上につながったと思います。Do you like～？と聞くだけでも会話を進めることができるので、文法などは気にせず、相手のことを知りたいと思うことが一番大切だと感じました。また、英語で質問をする前に文を考慮するので語順などが自然と意識でき、それまで感じていた疑問なども自分の中で消化することができ、英語力はUPしたと感じました。



○SDGs への取り組みなどを知り、厚狭中学校生徒等に広げる

→よく観察しながら外を歩くと、リサイクル用のゴミ箱が何台も設置され、驚きました。またコンポストと書かれたゴミ箱もあり、食べ残しを捨てていいようにもなっていました。私が知らないだけかもしれないけれど日本にはないように感じ、感心しました。知らないかもと思ったことも含めて、もっと勉強しないといけないなと感じました。

3評価(SEE)

★80点★

最初、緊張のあまり喋れないし、聞き取ることもできませんでした。そのため翻訳アプリを使ってもらったことも多く、思ったことが伝えられなかったからです。また、遠慮をしすぎてしまったからです。楽しむべきところで遠慮をしてしまって今すごく後悔しています。

オーストラリアでは日本とは全く違う素晴らしい体験をさせていただきました。

多様性の授業やゴミ箱のことなど自分がいいなと思ったことを文化祭や生徒会活動の中で発表や実践することができたらいいなと思います。

オーストラリアの学校や街などたくさんの場所で学んだことを私の夢である SDGs に関わる職業につくことに活かしたいと思います。

派遣生徒レポート～異文化に触れた十日間～



学校生活について

自由度が高いというのが一番の感想でした。授業でうるさくなくても日本のように授業が中断されてまで怒られるということはない様子で、聞かなくてもいいけど困るのは自分というような感じなのかなと思いました。日本では全員が聞かないといけないというような雰囲気なのでそこが違うなと思いました。またピアスなどのアクセサリ類や化粧も OK なので自分らしさを表現できたり、自分の好きな自分でいられることがいいなと思いました。

私が参加させてもらった授業には多様性の授業があり、黒人への差別に関する授業でした。椅子に座って円になり、発表するという方法でした。自分の学校ではそのような授業はしたことがなかったと思うので日本でも多様性の授業があればいいなと思いました。



朝は部活動のようなものがある時もあり、バディの Amelie がしているバレーボールの練習に参加したこともありました。みんながボールを返せただけで大きなリアクションをしてくれて楽しかったし、嬉しかったです。

ハンターという Amelie の友達は日本語クラスの12年生で日本語でたくさん話しかけてくれました。ハンターの友達も私の名前を覚えてくれて「Urin！」とたくさん呼んでくれました。そのおかげでなんだが自分の名前がもっと好きになりました。

学校では他にも沢山の人が話しかけてくれました。みんなフレンドリーで「誰の家にホームステイしてるの？」や「オーストラリアは楽しい？」などと聞いてくれました。とてもニコニコの笑顔で沢山質問をしてくれる子もいてとっても嬉しかったです。だけど、自分からなかなか話しかけられなかったことを後悔しています。

また、自分から写真を撮ろうとなかなか言えず、遠足のときなどの写真が少なくなってしまったことも後悔の一つでした。でも本当に学校生活は「嬉しい」「楽しい」という感情がほとんどで、気持ちを他の言葉で表現するのが難しいほどでした。

ホームステイについて

私のホストファミリーはマザーの Vanessa、ファザーの Ryan、バディの Amelie、Oliver でした。そしてペットの Pippa と Reggie というかわいい2匹の犬がいました。Vanessa は優しくて陽気でとても頼りになるマザーでした。Ryan はとっても面白くて、いつも私のことを笑わせてくれる陽気なファザーでした。Amelie は生徒会長でとても頼りになるのに、友達といったら「She is crazy.」と言われてしまうようなとても面白くてかわいいバディでした。Oliver は AFB をしていてしかもアボリジニのダンスも踊れるとてもカッコいいバディでした。

ファミリーとの英語は最初、全く聞き取れないし話せなくて、たくさん翻訳機を使わせてしまったし、私が答えられないこともあったけど「It's ok!」で何も言わずにいてくれたり、私の好きな音楽を流してくれたり、カードゲームをしようと誘ってくれたりしてたくさん気を使ってくれました。そのおかげで3日目ぐらからは慣れて自分から質問したり、相手の言ったことが理解できて返事が返せるようになりました。

1日目、2日目の緊張していたときは Reggie にとても助けられました。会話がなくて気まずいときも Reggie が「遊んで」というふうになんか近くに来てくれてそのおかげでファミリーと会話ができることもありました。



土日やストライキで学校が休みになった日は家族みんなが早起きして色々な場所に連れて行ってくれました。もっと寝たいだろうに文句ひとつ言わずたくさんの遠い場所に連れて行ってくれて、感謝の気持ちでいっぱいでした。Ryan に「長い時間のドライブありがとう」と伝えたら、「It's ok. Did you have fun?」と言ってきてもちろん「Yes, I was very fun.」と答えました。出かけた先も楽しかったけど、車の中でみんなでした黄色の車を見つけたら「スパロウ」と言ったりするゲームもとても楽しくていい思い出です。

Angus ファミリーは夕食があまり多くなく、その後のデザートや軽食を楽しむようなスタイルでした。例えばハムとチーズが入ったホットサンドやアップルパイにバニラアイスのをせたもの、MILO というココアのような飲み物を作ってくれたりもしました。MILO は作り方が人それぞれ違らしく、私に教えるときに互いに「No! 」と言いながらみんなが作ってくれました。これも楽しかった思い出の一つです。

Reggie と Pippa にあまり食べさせないほうが良いチーズを「シー」というポーズをして二匹にあげる Ryan や2匹を持ち上げて天井につけようとする Oliver、伏せている Reggie をぐるぐる回す Amelie。そんな3人を怒った目で見ると Vanessa。私はこの Angus ファミリーが大好きになりました。



印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

一番印象に残ったことはみんながとってもフレンドリーなことです。見ず知らずの私に話しかけてくれる人がたくさんいて私もこうなふうに緊張せず、色んな人と話すことができたらいいなと思いました。

来年の派遣生徒へのメッセージ

緊張は絶対にするものだと思います。緊張してもいいからその後でどう行動するかが大切だと思います。でも大丈夫です。絶対に3日目ぐらいには慣れて、オーストラリアが大好きになって楽しくなると思います。私のように「写真をもっと撮っておけばよかった。」などと後悔しないようにしてほしいです。「やめておきます。」や「いいです。」と遠慮などをして言ってしまったら、絶対に後悔します。

悔いの残らないように行ってきてほしいです。

あと、「Pardon?」は覚えていたほうが便利です。聞かれたときも聞くときにも便利です。「One more time please.」よりも多く使われていました。

最後に言いたいのは「楽しんできてください。」です。頑張り過ぎなくていいと思います。

全力で楽しんできてください!!!



お世話になったホストファミリー



父: Ryan

母: Vanessa

バディ: Amelie

Oliver

犬: Pippa

Reggie



埴生中学校3年

ほしの ひかり
星野 光璃

1計画(PLAN)

○翻訳アプリをできる限り使わない

→現地の英語を聞いて学ぶことができる最大チャンスだから、できる限り自分で聞き取って、自分の力で返答をする。

○現地の方々とたくさん交流をする

→まずは会話を長く続けることより、会う人みんなに「Hello!」や「Hi!」と声をかけて沢山のひとと話してみる。

→少し仲良くなれた人には、会ったときに「How's it going?」などと聞いて、会話を弾ませる。

○日本の魅力を伝えて、オーストラリアの魅力を教えてもらっただけじゃなく、自ら気気付く。

→他国のホストファミリーやハイスクールの方々が日本人を受け入れてくれるから、日本の魅力を最大限伝える。

→「百聞は一見にしかず」ということわざのように、何回もオーストラリアの魅力を聞くことも大事かもしれないけど、自分の目で見たり、写真で撮ったり、体験したりしたことを、日本に帰ってきたときに最大限伝えられるようにしたい。



2行動(DO)

学校では、多くの人に自ら話しかけることができました。なかなか休日すれ違った人に挨拶することはできなかったけど、遊園地で並んでいたときに前に並んでいる人と会話ができたりなど、フレンドリーに接することができたと感じます。でも、町行く人に自ら話しかけることはできなかったから、改めて、オーストラリアの人々のフレンドリーさに気づいて、それを感じることができました。

最初はとても緊張していて、「話しかけても無視されたらどうしよう」など思うこともあったけど、実際話すと無視する人なんかいなくて、みんな暖かく接してくれました。学校に行くと、日本語を学んでいる生徒がほとんどなので、日本語で話しかけてくれる子がたくさんいます。異国でも、私の母国語を勉強してくれて、それを使って話してくれることがとても嬉しかったし、親近感が湧いてすぐに仲良くなれます。



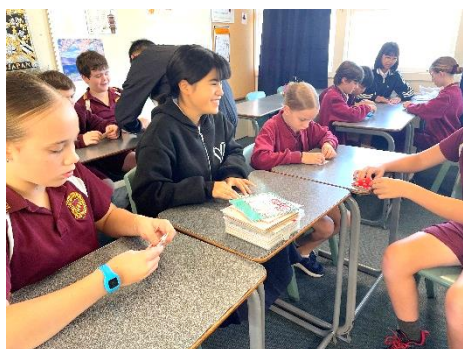
私は日本の有名な絵画のパズルを持って行ってバディと一緒に作成しました。ピース数が多くて大変だったけど、完成した時の達成感をバディと一緒に味わえ、完成後にホストファミリーが「It's very beautiful!」と褒めてくれて、とても嬉しかったです。

私が滞在したホストファミリーの家は学校から少し離れていて、『THE 住宅街!』という感じではなく、『THE 自然!』という印象を一番に持ちました。モートンベイ市は自然豊かな町とは聞いていましたが、想像を絶する綺麗な自然でした。課題として、自分が入った写真を多く撮る必要がありましたが、景色もたくさん写真を撮りました。山陽小野田市も、自然が豊かな町並みが多いですが、それに負けないくらいオーストラリアにも自然豊かな町があることを知れて、嬉しかったです。

3評価(SEE)

★95点★

惜しいですが、95点です。理由は、私が翻訳アプリを使ってしまったのと、ホストファミリーにたくさん使わせてしまったからです。でも、段々と、日が経つにつれて、感覚的には、翻訳アプリを使わなくなったし、感情が凄く伝わるようになったと感じました。なので、95点にしました。この派遣を通して、人間は国を超えても人と繋がることができると、実際に経験することができました。オーストラリアで得た、フレンドリーさを、来年からの高校生活でも、人生の色々な所で活用していきたいです。



派遣生徒レポート ～笑顔溢れる10日間～

学校生活について

私は「Redcliffe State High School」という中高一貫校に通いました。

この学校の生徒数は、約1500人で、私の通っている学校の生徒数は約80～90人なので、約18～19倍以上の生徒が通っていることがわかりました。

特に印象に残った日本の学校との違いは、学校が終わる時間が早く、校則がとても緩いことです。日本の多くの中学校は、16時にその日の授業が終わり、そこから18時頃まで部活をしてから帰りますが、オーストラリアの学校は月曜日～木曜日は14時40分に学校が終わり、帰宅します。金曜日はもっと早く、13時10分には学校が終わり、宿題の残りや、補習がない人は帰宅するので、とても早く帰ることができます。これはオーストラリアの学生にとってもご褒美のようなものだと言っていました。

オーストラリアの人たちは放課後、クラブチームに入っていない人はアルバイトをするそうです。日本では、中学生がアルバイトをするなんて聞かないですよね。オーストラリアでは、13歳や14歳になる年にアルバイトを始める人が多いそうです。

オーストラリアの義務教育期間は、1年生～10年生までなので、義務教育終了後はフルタイムで仕事に付く人もいます。その他にも、別の学校に通い、学位取得をするために勉強をする子は、中退もできるそうです。

校則については、日本の学校とは比べ物にならないくらいゆるゆるです。まず、ピアス、メイク、タトゥー、スマホ、ヘアカラーなど全く縛りはありません。それに加え、学校内でスマホを使用は禁止されていますが、登下校中などは使っても全



く問題なく、学校にスマホの持ち込みが可能です。オーストラリアでは小さい頃にピアスを開ける子が多いそうで、学校にいる生徒の 9 割以上の生徒がピアスを開けていました。開ける場所も耳だけでなく、鼻やおへそ、口元など、色んなところに開けていたし、何箇所も開けている子もたくさんいました。

そして、生徒たちが自由だということです。もちろん、校則の話もありますが、そもそも日本の学校のように一人一席の教室ではありません。何個か大きいテーブルがあり、それを囲むようにして、座って授業を受けます。なので、仲がいい子と同じテーブルに座ることができます。

ランチタイム後の授業では、生徒が授業中にりんごを食べていたり、ガムを噛んでいたり、授業中になにかを食べていることは珍しくありません。授業をしている先生も授業中にお水を飲むなど、日本の学校とは異なる場面がとて多かったのです。それに、野外活動が多く、「絶対に教室の中でもできる！」と思うような授業でも、外に出て授業をする事が多くありました。これも、日本とオーストラリアの文化の違いだと思います。



ホームステイについて

今回私が滞在したホストファミリーの家族構成は、ホストマザーの Anita、ファザーのショーン、バディの Rose、姉の Elizabeth、弟の Albert の 5 人家族でした。ファザーは仕事の都合で、別の家に住んでいて、普段は、ホストマザーと Rose と Elizabeth と Albert の 4 人で生活しています。初日にホストファミリーの家に行くときは、車で走る道も、家の中もすべてが初めて見る光景で戸惑っていたけど、部屋を紹介してくれたり、買い物に連れて行ってくれたおかげで緊張がほぐれて、その日のうちにホストファミリーとたくさん話すことができました。日本から持っていったお土産を紹介すると、早速みんなで食べ始めて、キットカットの抹茶味がとても人気でした。日本から、四種類のパズルを持っていったのですが、一番興味を持ってくれたのは、葛飾北斎の作品の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」でした。Rose が「Is this Tsunami?」と聞いてくれました。私は、「This painting was created by a man named Katsushika Hokusai.」と伝えました。初めて見る日本の画家の作品にとっても興味を示してくれて、とても嬉しかったです。

オーストラリアでは水が貴重な国と聞いていましたが、実際に生活しているとそれを感じることはありませんでした。シャワーの時間はできるだけ気を遣って、15 分程度で済ませるようにはしていましたが、Rose は 1 時間ぐらいシャワールームにいました。現地の人々はそこまで、水が貴重なことについて、気にしていないことがわかりました。

家は一階建ての平屋なのに、一部屋がとても大きく、部屋の数も 10 部屋以上あり、とても広かったです。私のために一部屋まるまる貸してくれました。どの部屋にもシングルサイズではなくダブルベッドが置いてありました。家だけでなく、学校やショッピングセンターなどの施設に行ってもあったのですが、部屋の電球に扇風機がついていました。



夜ご飯はデリバリーで頼むことが多く、日本にもあるマクドナルドやドミノピザを食べました。マクドナルドのメニューが日本のメニューの3倍ぐらいあって、驚きました。初日にホストマザーがハンバーガーを作ってくれたのですが、パイナップルの輪切りが入っていました。マクドナルドのメニューを紹介してくれたときにも「これはパイナップルが入ってるよ！」と教えてくれましたが、日本では、ハンバーガーにパイナップルはあまり見ない組み合わせだったので、食べるのを躊躇してしまいました。ドミノピザは日本では利用したことがなく、初めてだったのですが、日本のピザよりも圧倒的にサイズが大きいです。一人一枚ピザを買ってくれたのですが、一人で一枚も食べられません。私は、8等分したうちの3枚が限界でした。

最終日に荷物のパッキングを始めると、ホストファミリーがたくさんお土産をくれました。毎日Roseとおやすみのハグをしていましたが、「Last Hug」といって、とても長くハグをしました。自然と涙が溢れてきました。十日間という短い期間でしたが、毎日が新しいことだらけで、たくさんの経験をし、大きく成長できた期間でした。



印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

実は、去年私が中学二年生だった時に、この事業に応募しようと思っていましたが、いざ親と離れて、十日間も海外で過ごすとなると、心細くなり、不安な気持ちが大きくて断念してしまいました。今年は、そのような気持ちよりも、海外に行ってみたい！という好奇心が勝ち、この事業に参加しました。実際に行ってみると、楽しすぎて、最終日には日本に帰るのが本当に嫌でした。少しでも行ってみたい気持ちがあるなら迷わず応募するべきです。現地でどんなにオドオドしていても、一緒に行く派遣生徒の子、引率者の方、何より、現地のオーストラリアの子たちが助けてくれます！

英語が苦手だから…と思っている方もいるかもしれませんが、心配しないでください！最初からうまくいく人なんてどこにもいません。最初から何もかも完璧にしようとせず、ゆっくり一人ひとりのペースでたくさんの人たちと関わっていけばいいと思います！この事業に参加していた先輩たちにもたくさん頼ってください！

十日間は一瞬で過ぎていきます。これからみなさんがオーストラリアでとても楽しい時間を過ごすことができるように、いつまでも願っています！

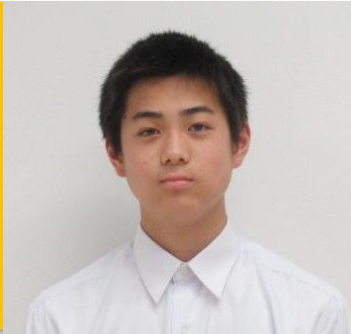


母: Anita

バディ: Rose

姉: Elizabeth

弟: Albert



厚陽中学校2年

み と なお き
三戸 尚己

1計画(PLAN)

- 海外の人や文化に触れて視野を広げたり、英語力やコミュニケーション力をつけたい。
- 祖父が和風を作っているのでホストファミリーと和風と一緒に作成し、空にあげたい。
- 受け入れてくださるホストファミリーとの交流を深めたい
- ホストファミリーが野球をしていると聞いたので一緒にやりたい。



2行動(DO)

計画していた2つのことは実行できました。

和風については作るときの絵や作るときに好みや性格が出ていました。和風を飛ばすときは風がなかったみんなで走って浮くようにしました。大変でしたがみんなで楽しくできました。

野球は末っ子の子と一緒にしました。バッティングをしました。すごくうまくてビックリしました。

3評価(SEE)

★100点★

僕はこのオーストラリアでの生活は100点満点中100点だと思います。

食事がボリュームでとても美味しくホストファミリーもすごく親切にしてくれて色々なところや経験ができてすごく充実した10日間だったと思っています。ですが、後悔しているところがあります。何かというと準備不足です。もっと準備をしていたらよかったと帰ってきてからおもいました。他にも盛り上がる時はもっと盛り上がったほうが楽しかったと思います。

このようなことから自分に点数をつけるなら50点ぐらいだと思います。

この経験から今からは大事な時だけ頑張るのではなくその前の準備の段階からしっかりとしていき、真面目にするときは真面目にして、楽しむときはしっかりと楽しんでメリハリをしっかりとしていきます。





学校生活について

毎日の登下校はホストマザーに送ってもらいました。学校は中高一貫校でした。学年の数が7年生～12年生だったので最初の方は違和感がありました。2回休み時間がありました。そして、昼休みに誘われ体育館で遊ぶことになりました。体育館が土足ということに衝撃を受けました。そしてタトゥーやピアスを学生がしているということに驚きました。他にも金曜日に早く帰れる事が印象的でした。朝や昼に自由にとっていい食事がおいてありました。話を聞いてみると家庭の事情で朝食を食べられなかったり弁当が作られない家庭のためだそうです。



ホームステイについて

僕がお世話になったホストファミリーはみんなすごく優しく、スポーツに熱心でした。特にラグビーはチーム数もすごく多くみんなが協力的でした。プロの試合も見ましたが、日本のスポーツの合とは違ってどちらかというとライブのような感じでした。ホストファミリーとは最初は言葉が通じなかったりどのように接すればいいかわかりませんでした。みんながすごく優しく、子どもたちと一緒に遊んだり楽しかったです。

ホストファミリーは先住民族らしく子どもたちにハカを教えてもらいました。ハカを覚えてもらう前にどのハカを教えるか争っているのを見ました。面白かったですが、ハカに種類があることを知って驚きました。食事が多くてすごく美味しかったです。ですが食事以外でもたくさん食べるので少し多かったと思います。

SNSなどで流行っているものはオーストラリアでも流行っていてホストファミリーが踊っていたり歌っていたりしたのが面白かったです。



印象に残ったこと、来年度派遣生徒へのメッセージ

印象に残ったことは外にゴミ箱が多いことです。日本でも自販機の横にペットボトルや缶などのゴミ箱がありますが、オーストラリアはどこにでもゴミ箱がありました。これはすごくいいと思いました。なぜなら、ポイ捨てが減ると思うからです。

ホームステイでは恥ずかしがらずに思い切ってやったほうが楽しいし後悔しないと思います。明るく返事などをして何事もやると言ったら周りも関わりやすくなると思います。



お世話になったホストファミリー



父: Bevan

母: Sharlene

バディ: Logan

: Bailey

弟: Harper



山陽小野田市協創部長

しのはら まさひろ
篠原 正裕

中学生海外派遣に引率して

<中学生海外派遣事業>

令和7年7月30日から12日間の日程で行われた中学生海外派遣事業については、本市と友好都市であるモートンベイ市との友好親善と相互理解を図ることのほか、広い視野と国際感覚を持った次世代を担う人材を育成することが目的とされています。



派遣された生徒たちは、山陽小野田市を出発する7月30日(水)には、興奮の中に「大きな不安」が見え隠れしていましたが、帰国の途に就く8月9日(土)には、ホストファミリーとの別れの寂しさの中にも、「自信を持った前向きな表情」が見て取れたのが印象的でした。

今や「グローバル化」は当たり前であり、この中学生海外派遣事業において、「英語」でコミュニケーションをとることや、現地でのホームステイを通じて、生活・風習・文化を経験ができることは、少なからず、今後の生徒たち自身の選択肢が増え、その可能性が大きく広がっていくものであり、大変有効な取組みであると、感じたところです。

貴重な体験ができるこの派遣事業は、生徒たちの満足した気持ちだけで終わるものではありません。

7月25日の壮行会では、「体験を経験に変え、その経験を糧に、将来の夢を実現する」という言葉をいただきました。出発前には、「やってみたいこと」や「不安なこと」などが山積みだった生徒たちにとって、派遣期間中に、それらを「どのように実行できたか」、「不安は解消されたか」を振り返ることによって、「今、どのような気持ちか」「今後、どのようにしていきたいか」を、しっかりと感じとり、次へと進んでいくことが大事だと思います。(すべてが初めての出来事・経験だったので、予想を上回るものを感じているのではないかと、思います。)

生徒たちが感じたものは、それは「夢」や「希望」、「目標」であり、これらを叶えるために、「何を、どのように取り組むか」に向けて、行動を起こしてほしいと思います。

前向きな気持ちで、夢に向かって努力し、その夢を実現すること、そして、その姿を見た次の世代の生徒たちが、その姿に憧れ、次に続いていく、というプラスの連鎖に期待しています。

派遣期間中に、生徒たちがどのようなことを思い、感じたかは、それぞれの報告に任せるとして、引率の役を受けた身としては、何よりも、全員が無事に帰国できたことに安堵しています。

(8月10日に帰国しましたが、大雨のため、山陽新幹線(博多-広島間)が運転を取りやめ、高速道路も通行止めとなったため、帰省する交通手段がなくなりました。福岡市内での予定外の宿泊をすることとなり、保護者をはじめ、関係の皆さまには、大変なご迷惑とご心配をおかけしました。)

このたびの中学生海外派遣事業にご理解をいただき、支えていただきました皆さまに感謝申し上げます。

また、これらの事業が実施されることにより、本市とモートンベイ市との友好交流が深まりますとともに、グローバルな感覚や視野を持った次世代の人材育成の機会の提供や本市の多文化共生の推進に資することを願っています。

＜レッドクリフ・ステート・ハイスクール＞

派遣生徒たちが通ったレッドクリフ・ステート・ハイスクール(Redcliffe State High School)は、7年生(12歳)から9年生(14歳)の中学校、10年生(15歳)から12年生(17歳)の高等学校の生徒が約1,450人在籍する州立高校です。

派遣生徒たちの担任である、日本語担当のジェシカ先生(Ms. Jessica Riley)とスコット先生(Ms. Kana Scott)方の工夫により、授業のカリキュラムは非常に配慮されたもので行われたと感じています。

現地到着の翌日、8月1日(金)の授業では、T7教室(日本語クラス)で、1時間目は10年生、2時間目は9年生、3・4時間目は8年生と一緒に授業を受けました。

まずは、自己紹介から始まりました。初めに「はじめまして」、最後に「よろしくお願いします」をつけて、「私の名前・年齢・好きな食べ物」などを紹介しました。

また、日本語の伝言ゲーム(Japanese Whisper Game)では、伝わった言葉を日本語でボードに書かせ、それが発音(ローマ字)か、ひらがなか、漢字か、によってボーナスポイントを与えられることで、興味をひかせる仕掛けとなっていました。

違った言葉が伝わったとしても、決して、その犯人探しをするのではなく、間違って伝わった言葉自体の意味なども説明されていたのが印象的でした。



この時間は、派遣生徒たちにとっては、日本語の「伝言ゲーム」でしたので、当たり前だったかもしれませんが、英語と日本語、言葉を伝えることの難しさを実感しつつ、自然と、ハイスクールの生徒たちとのコミュニケーションが取れる仕掛けとなっていました。

いろいろな学年のハイスクールの生徒と、授業と一緒に受けたことにより、学校内では、バディ以外の生徒から、気軽に「コンニチワ!」と声をかけてもらえる存在になりました。

また、日本語クラスを専攻するハイスクールの生徒たちにとっても、「日本人と日本語で会話できる」機会とあって、派遣生徒との会話の内容がどんどん広がっていく様子が見られました。

派遣生徒たちは、日本語クラスの授業だけでなく、体育や音楽、調理実習のほか、日本でいう道徳(倫理)の授業「リスペクトクラス(Respect Class)」など、ハイスクールでの生の授業にも出席しました。(これらは、すべて英語による授業だったので、同席していた私には“?”でしたが…)



派遣生徒たちが受けたハイスクールでの授業全般を見て感じたことは、黒板記述をノートに写すような授業ではなく、ゲーム感覚での体感の中で、知識よりも実戦で身につけていくスタイルで行われ、生徒たちの答えには、必ずその理由を求めることで、自分の考えを主張できる場が作られ、双方向のやり取りが行われる進め方をしていました。

派遣生徒たちにとって、日本と大きく違う、レッドクリフ・ステート・ハイスクールでの授業は、インパクトの大きい、とてもエキサイティングな時間だったのではないかと思います。



派遣事業の担当していただきましたジェシカ先生やスコット先生には、ホストファミリーの受入調整から、ハイスクールでの毎朝の登校確認、授業の準備・手配などのほか、最終日の「お別れパーティー」の対応まで、大変細やかなご配慮をしていただきました。

本当に、ありがとうございました。

派遣生徒たちにとって、とても充実した無二の10日間の学校生活だったと思います。





山陽小野田市市民活動推進課

あんど　ともえ
安藤　知恵

中学生海外派遣に引率して

《派遣前の活動》

オーストラリアモートンベイ市への派遣生徒の6名が決定し、参加する生徒が初めて顔を合わせる第1回オリエンテーション。みんな緊張していましたが、これから始まる新しい海外派遣への第1歩に向けて、一生懸命取り組んでいこうという姿勢が感じられ、私もいよいよ始まるなと気持ちを奮い立たせた記憶が蘇ります。派遣中の恒例行事「さよならパーティー」では、ソーラン節の披露と紙風船競争をすることとなり、皆で協力して最高の出し物をしよう！と決意を新たにしました。



第2回オリエンテーションは英会話レッスンからスタート。講師はご自身も中学生海外派遣に参加されたウイーズ篤実先生。当時のオーストラリアでの経験談を生徒たちは興味深く聞き入り、これから訪問するオーストラリアへの夢がまた大きく膨らみました。また、自己紹介を英語で話す課題は、ホストファミリーとの会話にとっても役立つものでした。

その日の午後は、きららガラス未来館で、ホストファミリーへのお土産用にジェルキャンドルを製作しました。それぞれがホストファミリーのことを思いながら、時間を忘れて夢中になっていました。ホストファミリーに渡す時が楽しみです。

その後、現地で最終日に開催される「さよならパーティー」での出し物について、話し合いを行いました。それぞれが当日までに準備をする役割を決めて、ホストファミリーに楽しんでもらうためにはどうしたら良いか、みんなで活発に意見を出し合いました。



出発まで5日となった7月25日、壮行会を開きました。藤田市長をはじめ出席者の皆様から温かい激励の言葉をいただき、身の引き締まる思いです。生徒たちは初めての海外旅行で、長期間家族と離れるため、期待とともに不安も大きかったようです。



《派遣中の活動》

オーストラリアは南半球にあるため、日本とは季節が逆で、私達が訪れた7月下旬から8月は冬です。酷暑の日本を出発し、ブリスベン空港に到着して外に出た時、みんなが涼しい！快適！と叫んでいました。日本とは違う景色、風土、文化に触れられる12日間の旅の始まりです。

平日は主にレッドクリフステートハイスクールで過ごしました。日本の学校より終業時間が早いですが、授業数は4コマあります。ハイスクールでお世話になった担当のジェシカ先生は、日本語が流暢で、日本の風習や文化について勉強されており、日本語教室では日本で流行っているアニメソングをカラオケで歌ったり、新聞紙で兜を作ったりして、文化交流を深めました。日本の授業形式とは違って席は決まっておらず、とても自由な環境で学ぶことができます。自分からコミュニケーションを取っていくことで、ハイスクールの生徒たちとの距離も近くなり、休憩時間中は生徒同士が英語で色々な話をしていました。話のきっかけになるのは、アニメや音楽です。日本のサブカルチャーは絶大な人気です。

校外学習ではオーストラリアでコアラを見るならここ！「ローンパインコアラサンクチュアリ」にハイスクール10年生と一緒に出かけたり、市内の高千帆小学校、赤崎小学校と姉妹校を締結している小学校を訪問して、子供たちに本を読み聞かせたり、折り紙で鶴を折ったり、音楽の授業を一緒に受けました。どの活動も英語での会話を通じて、生徒たちが言葉で伝える難しさを体験したようですが、ジェスチャーや笑顔で接するだけでも、案外通じ合えて盛り上がっていました。



学校が終わるとホストファミリーが迎えにきて、それぞれ帰宅します。放課後と週末はホストファミリーと車で出かけたり、買い物に行ってお過ごしていたようです。平日の朝、生徒たちが登校してくると、『体調は大丈夫？』『昨日は何食べた？』『どんな話をした？』など私からの質問責めにあう生徒たち。私はとにかく

くみんなと話がしたくて、これが毎朝の私の日課になっていました。生徒たちがとても楽しそうに話をしてくれて、それだけでホストファミリーの皆さんが愛情をもって接してくださってることが分かります。ホームステイで過ごす日々はオーストラリアの生活がより実感できる大切な時間で、日常生活の中で実践的な英語を使う貴重な経験となりました。

今回の滞在中、クィーンズランド州の公立学校のストライキで学校が1日休校となりました。14年ぶり？とか。その日に訪問予定だった美術館や博物館への訪問が中止となり残念でしたが、生徒たちはホストファミリーと過ごす時間が増えて楽しかったようです。引率者も急遽フリーの時間となり、レッドクリフ周辺を徒歩で約20km散策しました。この地域はモートン湾に半島が突き出していて、海岸線が長く続き、とても美しい景観が広がっています。山陽小野田市内でよく見かける波消しブロックや人工的な構造物がなく、自然のままの海岸線が残っています。家族連れが砂浜で遊んだり、海岸線沿いには遊歩道が設けてあり、歩いたり走ったりしている方と多くすれ違いました。本当に魅力的な街です。



最終日、ハイスクールにホストファミリーを招待して「さよならパーティー」が開催されました。生徒たちは出発前から出し物を準備しており、ソーラン節と紙風船競争を披露しました。第2回オリエンテーションで教えていただいた「Good Time」を会場全員で合唱して、とても盛り上がりました。生徒たちみんなが自主的に考えて行動して、さよならパーティーを盛り上げてくれたことが、何より嬉しかったです。



《派遣の引率を終えて》

12日間の海外派遣生活は、生徒たちにとって新しい発見や学びがたくさんあったようです。滞在中の生き生きとした姿が、この旅行の成功を物語っています。もしかしたらこのオーストラリア旅行が、生徒たちのこれからの未来を変える転機になるかもしれません。そのような素晴らしい時間を一緒に過ごせたことは、私自身にとっても貴重な経験となりました。帰国後、大雨の為、帰宅が1日伸びましたが、みんながそれぞれ家族と再会し、笑顔で話しているのを見て、無事に帰れたことへの安堵感と生徒たちと離れることへの寂しさも感じました。感動と笑いと涙の12日間。最高のメンバーと過ごせて本当に幸せでした。

友好都市モートンベイ市への中学生海外派遣は今年で30回目を迎えます。これまで事業を支えてくださった関係者の皆様、またいつも温かく迎え入れてくださるモートンベイ市の皆様に感謝申し上げます。

今後もモートンベイ市との交流が末永く続くことを願っております。

編集・発行

山陽小野田市協創部市民活動推進課

〒756-8601

山口県山陽小野田市日の出一丁目1番1号

TEL 0836-82-1134 FAX 0836-84-6937